

湘南藤沢学会 研究助成金  
成果報告書

「過労死防止のための労働法と企業に求められる  
メンタルヘルス対策」

慶應義塾大学 総合政策学部 4年 押尾 聖人

1.活動概要

活動日程 平成 28 年 8 月 1 日～平成 28 年 10 月 31 日

プロジェクト主導者 押尾聖人

参加被験者 合計 100 名

2.活動の背景

現在に至るまで、過労死の問題は民事上の労働災害、行政上の労災認定取消訴訟など裁判上の争いで取り上げることが多かった。その過労死の問題を、ストレス反応や心理分析といった精神医療の側面から考察を行うことで、具体的に過労死をなくす上でどのような施策を講ずればいいのか、予防的示唆を得ることで重要な視点を提示し得る。

3.活動の目的

本活動の目的は、過労死における、精神疾患に至る原因要素の特定である。方法については、二種類の心理テストを被験者の方々に被験していただき、二つの心理テストの相関を調べることによるものである。心理テスト一つは SDS 検査でうつ症指標を測るテストである。もう一つは OSI 職業ストレス検査で、こちらは仕事におけるストレス値が測れる。この二つを掛け合わせることで、法律論でしか語られていなかった過労死の防止のための施策を検討できると考えた。

4.活動の成果

成果として、十分なうつ状態とストレスの関係についての相関を調べることが出来た。具体的には、職場関係、職場状況などのセグメントで分けて原因特

定を調査することができた。結果として、自身が想定した仮説とは異なるものがあり、実験を行ったことで適切な今後の施策を検討することが可能になった。

## 5.今後の展望

今回の調査で、うつとストレスの関連の具体的な数値を得ることができたので、より過労死の防止を行うための施策を検討する。特に、過労死が起こりうる現場は基本的に職場であるので、企業の経営層向けへの、かつ企業の負担となりにくい要素での検討をする必要がある。今回のデータを鑑みながら、今後企業に求められる労働者のメンタルヘルスの内容を考えてゆきたい。

## 6.謝辞

本研究において今回のリサーチは大変有意義なものであり自身の研究は大いに発展した。複数の心理テストを快く被験していただき協力してくださった被験者の皆様に改めてお礼を申し上げます。また、湘南藤沢学会様によるご支援・ご協力がなければ、到底なし得ないものであった。湘南藤沢学会様に厚く御礼を申し上げます。

### 心理テスト試験用紙

右から OSI 職業ストレス検査質問用紙、回答用紙、SDS 検査用紙

